



チチアワタケ *Suillus granulatus* イグチ科

名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター No. 76 2024 年秋号

氷上姉子神社五社巡り撮影会

写真サークル

写真サークルでは、2 回/年の撮影会を開催しています。今年の春の撮影会（3/30）では、大高にある氷上姉子神社（ひかみあねごじんじゃ）五社巡りを実施しました。氷上姉子神社は、熱田神宮の摂社で、仲哀天皇 4 年（195）の建立とされています。御祭神は、当時この地の豪族尾張氏の娘の宮簀媛（みやすひめ）です。媛は、日本武尊命が東国平定後に滞在したこの地で妃となり、命が神剣草薙剣を媛に預けて伊吹山の荒神討伐に向かうも、深傷を負い薨去されたあと、神剣奉斎のために熱田神宮に奉納したとされています。五社とは、氷上姉子神社、玉根社、元宮、神明社、朝苧（あさお）社。元宮には宮簀媛宅趾の碑があり、山桜がちらほらと咲き始めたばかりで静寂感に身が引き締まる思いがしました。境外末社である朝苧社はヤブツバキが見頃で、雨上がりの参道（短い山道の如き）は落ち椿で満開なほどでした。入口に案内板がありますが、入口を見つけるのが難しいので、知っている方と共に出かけるか、ネット等で先に情報を調べておいた方がよさそうです。

ひかみやま
火上山は狭いながらも深い森のような神々しさが感じられます。廻間公園には休憩所があり、おにぎりをほおばるには好適地です。氷上姉子神社に車を停め（大高駅からは徒歩 25 分）、火上山の西端にある斎山稲荷神社奥の院まで足をのばして、5 社+1 神社を歩いて回ると約 5 キロ。よい運動になりました。



火上山 森の参道（写真サークル 五十川真知子）

セミナーハウス展示とイベントのお知らせ

吉野奈津子

現在観察園セミナーハウス展示室では「ふるさとの自然をみつめる～東海地方の里山を彩る花々」の展示を行っています。学生サークル「生物研究会」に所属する植物大好きな学生さん 2 人にご協力いただき、東海地方に固有な湿地の植物を主に紹介しています。湿地に生える美しい植物の写真のほか、お二人はどんぐりにも詳しく、秋ならではのどんぐりの紹介も行っています。日本に生育する 23 種のどんぐり、変わった形の海外のどんぐりも展示していますのでどうぞお越しください。

関連イベントとして、11 月 4 日（月・祝）13:30～15:00 に「ギャラリートーク＆観察園のどんぐり観察」を行います。植物愛にあふれるお二人とおしゃべりしてみませんか。秋のウォーキングが楽しくなることまちがいなしです。電話での受付も可能です。ぜひご参加ください。



名大生物研究会メンバーによる

ギャラリートーク＆野外観察園のどんぐり観察会

11 月 4 日（月・祝）13:30-15:00

定員：20 名 対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴） 参加無料

ウェブ事前申込制（申込開始 10 月 8 日（火）13:00～）



**ボラン
ティア
募集**

友の会では随時ボランティアを募集しています。ニュースレターの発送など、一緒に活動しませんか？

ご希望の方は友の会事務局までお問合せください。Eメール：hakubututomo@gmail.com

「なごや生物多様性センター」における 哺乳類標本の収集および利用について

曾根啓子

なごや生物多様性センター（以下、「センター」）は、2010年に名古屋市で開催された COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）を機に、名古屋市とその周辺地域の「身近な自然を守り、育てる拠点」として開設されました。設立当初から池干しや外来種の防除などの生物に関する調査・保全活動を実施しており、その成果物として得られた生物を標本（証拠品）として残すという博物館的な機能も担ってきました。残念ながら、市内には標本を一括して管理する拠点（自然史博物館）が存在しません。そのため、センターがその一端を担う施設として期待されてきたのです。幸いなことに、設立10周年となる2022年度に、標本の収集・保管機能を強化する目的で、標本室の拡充が行われました。現在センターには、「植物標本室」、「動物標本室」、「液浸標本室」の3つの標本室があり、約25,000点の標本が保管されています（表1）。今回はその中でも、哺乳類標本の収集および利用について紹介します。

センターの哺乳類標本の中で特に点数が多いのが、アライグマやハクビシンといった中型の食肉類です。これらの2種はいずれも外来種で、住居に入り込むなどの生活環境被害を起こすため、防除目的で捕獲されています。通常、このような個体は焼却処分されるのが一般的ですが、名古屋市ではセンターで回収し、解剖後に骨格や毛皮などを標本として残しています。アライグマを例にすると、これまでに約300頭を分析し、年齢構成や繁殖特性などを明らかにしてきました（文献1）。また、タヌキやキツネ、イタチなどの交通事故死した動物を回収して同様に標本化し、食性分析を行っています。その結果、街中で生息する個体の中には、いわゆる残飯を餌として利用しているものが存在することも分かってきました（文献2）。このように収集した標本を分析試料として利用する以外に、普及啓発のための展示資料としても活用しています。その一例を挙げると、名古屋市科学館と協働して市内の絶滅危惧種を標本で紹介したり（文献3）、里山の代表種であるタヌキに関する標本の出張展示を行ったりしています（写真1）。

冒頭で述べたように、自然史博物館のないこの地域では、標本の収集・保管に力を入れているセンター

は稀有な存在です。普段は施設の一般公開は行っていないませんが、必要に応じて標本室の見学も行っておりますので、まずはお問い合わせください。

（文献1）曾根啓子・野呂達哉. 2021. 名古屋市におけるアライグマ（*Procyon lotor*）の出産時期と一腹産仔数の推定. なごやの生物多様性, 8: 53-56.

（文献2）曾根啓子・野呂達哉. 2022. 名古屋市熱田区におけるハクビシン（*Paguma larvata*）の胃内容物の一例. なごやの生物多様性, 9: 103-105.

（文献3）柏木晴香・曾根啓子・西部めぐみ・野呂達哉. 2022. 名古屋市科学館における名古屋地域の生物多様性普及の試み—なごや生物多様性センター・名古屋市科学館共同企画「なごやのざんねんじゃない！いきもの」展—. なごやの生物多様性, 9: 87-91.

名古屋市環境局 なごや生物多様性センター
〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
アクセス：地下鉄鶴舞線「塩釜口」駅下車徒歩5分
電話：052-831-8104
メール：bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp
ホームページ：https://ikimono.city.nagoya.jp

表1. なごや生物多様性センターにおける標本点数.

分類群		点数
動物	哺乳類	900
	昆虫類	3,100
	貝類	300
	甲殻類	60
	クモ類	1,250
	その他（魚類、両生類、爬虫類）	300
	植物	19,000
計		24,910

2024年1月末時点



写真1. 2024年度に戸田川緑地で行ったタヌキの出張展示。夏毛および冬毛の仮剥製標本、消化管および糞に認められた内容物を展示した。

万葉の花 14

ツククサ

三矢保永

つ き く さ こ ろ も す
鴨頭草に 衣色取り 摺らめども 移ろふ色と

いふが苦しさ

作者不詳 万葉集巻七 1339

大意 露草の花で衣を染めたいと思うのですが、色変わりしやすいと、人が言うのがつらいことです。
注 露草の古名はツククサで、万葉集では、鴨頭草、月草と表記されています。花の汁は染料として摺染に使われていました。褪色しやすいので、集中の9首のうち、6首が“移ろひ”に関連して読まれています。この歌は題詞“草に寄せる”という17首の歌群のなかにあり、詠まれた草によって、あることを譬喩（ひゆ）していることになります。一説には“衣色取り摺る”は、“好きな男から求婚を受けた”、“移ろふ色という”は、“世間ではその男が移り気なお調子者と噂している”との解釈があります。1200年前の乙女心は、そのまま現代にも通じるように思われます。早朝に咲き始め、昼前には雄しべ・雌しべを巻き込んで、花を閉じます。花の構造は複雑で、普通は花弁が2種3枚（舌状に垂れている白い花弁1枚あり）、雄しべが3種6本、雌しべが1本あります。私見では20～30花に一つぐらい2輪咲きが現れます。

参考文献1：山田卓三 万葉植物事典 北隆館

参考文献2：伊藤博 萬葉集釈注 集英社文庫ヘリテージシリーズ



撮影 写真サークル 市枝真木子
撮影地 千種区-

Artist Earth 地球は芸術家 26

藍晶石（らんしょうせき kyanite）

足立 守

藍晶石（kyanite：発音はカイヤナイト）は濃い青色の鉱物で、名前の由来は青を意味するギリシャ語の kyanos です。新生児の血液中の酸素濃度が低くなり皮膚が青紫色になるチアノーゼ（cyanosis）も発音は違いますが同じ語源と言われています。藍晶石と同じ藍の字の入った鉱物に藍閃石（らんせんせき）がありますが、これは角閃石の仲間であらう違ふ種類の鉱物です。

藍晶石には少し変わった性質があります。それは結晶の伸びの方向の硬度が4で他の方向の硬度7.5よりもずっと小さく、一つの鉱物で2つの硬度を持つ鉱物という意味で二硬石（にこうせき）という別名を持っています。



ネパール産の藍晶石(写真の横幅は約10cm、Wikipediaより)

写真のような大粒の藍晶石の結晶は“藍晶石ペグマタイト”という岩石ではよく見られますが、一般に小さなサイズの藍晶石はアルミニウムを多く含む泥岩が変成作用を受けてできる鉱物（変成鉱物）の一つです。その化学式は Al_2SiO_5 ですが、全く同じ化学組成の鉱物に紅柱石（こうちゅうせき andalusite）と珪線石（けいせんせき sillimanite）があります。これら3つの鉱物は同じ化学組成でありながら結晶構造・色・硬度などが違ふ多形（polymorph）の関係にあります。3つの Al_2SiO_5 鉱物の中で、藍晶石は圧力が高い環境で、紅柱石は圧力が低い環境で、珪線石は温度が高い環境で安定ということがよく知られています。こうした温度・圧力の範囲が違ふ3つの鉱物は、地下深部で変成岩ができる時の温度圧力環境を理解する大きな手がかりになるので、古くから変成岩の研究で注目されてきました。

変成鉱物としての重要性から、藍晶石は紅柱石や珪線石とともに、大学や高校の変成岩に関連する試験問題に現在でもよく登場します。しかし、試験で本物を手にするような機会は全くないと思います。

野外観察園 2024 秋

吉野奈津子

この夏は本当に暑かったですね。雨が降らないと思えば急なゲリラ豪雨で洪水に。皆が安心して過ごせるようになることを願います。

観察園のこの夏元気だった植物 3 つを紹介します。一つ目は観察園の地湧金蓮（チュウキンレン）。猛暑に負けず元気に花を咲かせ続けました。10月10日現在、まだ咲いていますので開花日数も100日は超えました。残念ながら実は付いていません。花が終わったら脇芽を株分けしようと思います。

二つ目は花ナス、ソラナム・パンプキンです。実だけ見るとカボチャみたいで、季節柄ハロウィンにピッタリな植物です。正しくはナスの仲間ですが葉っぱや花はナスそのもの。1年前に切り花でいただいて可愛かったので種を採って育ててみました。ぐんぐん育ち早くからたくさん花を付けました。が、一向に実は付かず。暑さのためなのか何だったのか分かりませんがあまりにも花が落ちてかわいそうなのでトマトトーンという奥の手？を使いました。結果は一目瞭然で2、3日後からはどんどん着果。トマトトーンはオーキシンという成長や果実肥大を促すホルモンで、植物体自身も産生しています。補充してあげるとこんなにも変わるのでしょうか。なんだかちょっとうらやましくなりました。

最後は物置の屋根に生えたシンビジウムです。以前屋根から地上に移植し、花が咲いたことをご紹介しましたが、今年の春は3本の花茎が出ました。そのうち1本は途中で折れてしまいましたが、残り2本には実がついています。世話らしい世話をせずとも年々大きくなり、このランは本当に堅強です。何年か後にはどれだけ数を増やしているのでしょうか。暑い夏をものともしない姿から元気をいただいています。



チュウキンレン(左 10/10, 右 7/19)

Ensete lasiocarpum (Franch.) Cheesm. バショウ科



ハナナス *Solanum aethiopicum* L. ナス科



シンビジウムの仲間の果実 *Cymbidium* sp. ラン科

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2024年10月21日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市中種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)

Eメール: hakubututomo@gmail.com アクセス: 地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

ホームページ: <http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan>

年会費 1000 円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は 500 円 (次年度は 1000 円)

家族会員制度あり (同居の家族 1 名まで年会費を免除)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号: 00800-8-166807 加入者名: 名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキュウ) 店番 (089) 当座 0166807